

〔萬葉集三〕高市連黑人羈旅歌  
客爲而物戀敷爾山下赤乃曾保船與榜所見

〔萬葉考〕椶落葉三之卷別記 赤乃曾保船

營繕令云、凡官私船、每年具顯色、目勝受斛斗、破除見在任不、附朝集使申省、義解云、謂楳樟之類、是爲色也、船艇之類、是爲目也、云々とあるを、集解に、或人古記を引て、公船者、以朱漆之といへり、是は義解の説にもとりて、却て色目の解を誤れるものなるべけれど、官私の船彩色によりて分別ある事、且官船は朱漆なる事、この古記にて知られたり、則卷十六に、奥去哉、赤羅小船爾裏遣者、若人見而解披見鳴とある、赤羅小船は、公船なるよしは、その左註に見えたり、又同卷に、奥國領君之、染屋形、黄染乃屋形、神乃門渡とあるは、配流の人などは、黄染の船に乗るにや、この歌、怕物歌と題せるは、隱岐の國には、ふりやらるゝ人の、黄染の船に乗て、かしこき神の海門を渡り行を、おそろしむ意によめるなるべし、是等の歌にて、船に彩色の品ありて、公私の分別ある事、いよ、明らか也、

〔萬葉集略解三〕卷十四、まがねふく爾布能麻曾保の色に出てと有て、赭土をそほにといへり、あけのそほ舟は、其赭土もて塗たる船也、卷十三、左丹塗のを舟もがも、又なには、の崎に引登るあけのそほ舟卷十六、おき行や赤羅小船など有、あけと上に置て重ねいへる也、さて色どりたるは、官船にて、官人の船ならん、

〔萬葉集相〕忍照難波乃琦爾引登赤曾朋船曾朋舟爾綱取繫引豆良比有雙雖爲略

〔萬葉集秋〕天漢安乃川原乃有通歲乃渡丹曾穗舟乃臚丹裳軸丹裳船裝眞梶繁拔略

〔萬葉集秋〕山上臣憶良七夕歌

如○是○耳○也○戀○都○追○安○良○牟○佐○丹○塗○之○小○船○毛○賀○茂○王○纏○之○眞○可○伊○毛○我○母○略